
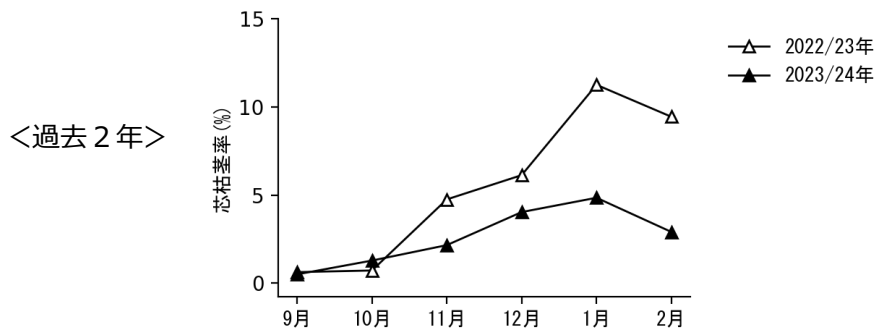
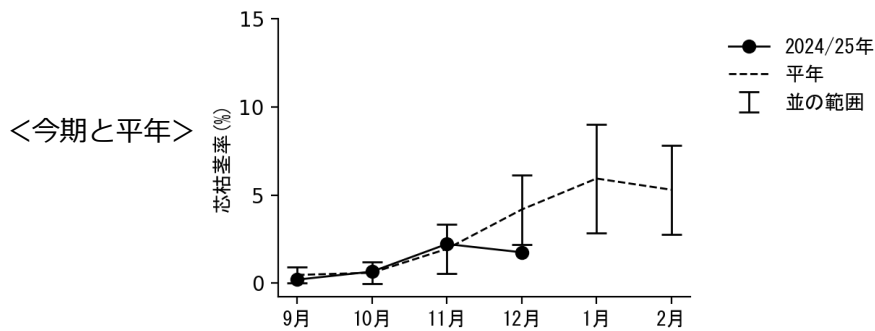


| | | | | |
|-------|-----------------------------|---------------|---|------|
| 作物 | さとうきび | | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ・イネヨトウ) | |  | |
| 調査結果 | 12 月の発生量 (平年比) | やや少 | | |
| 予報 | 12 月からの増減傾向 | ↗ | | |
| | 1 月の発生量 (平年比) | 並 | | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↗) | | |

調査結果


芯枯茎率の推移 (夏植え)



・発生ほ場率87.5% (平年 : 87.4%)

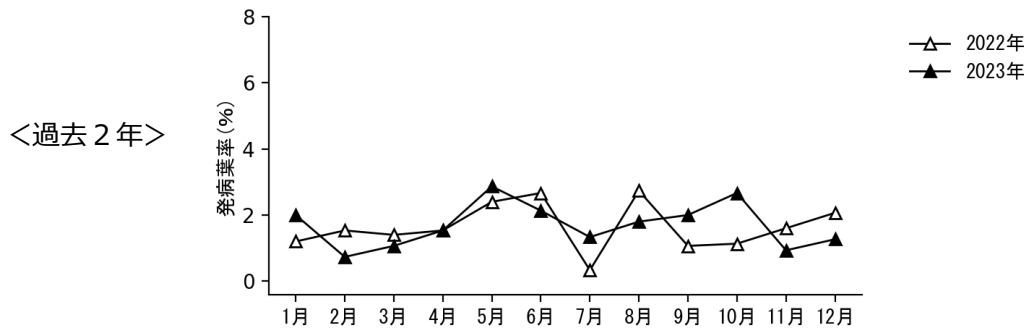
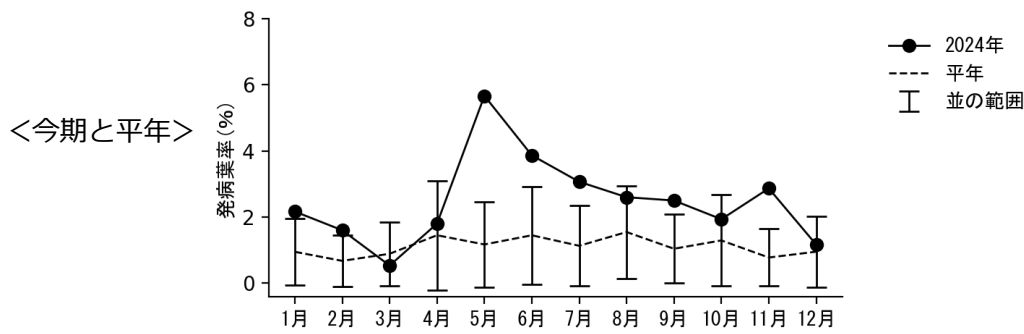
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤等の散布は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。

| | | | | |
|-------|---------------|--------------|----|---|
| 作物 | かんきつ（温州みかん） | | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | そうか病 | | |  |
| 調査結果 | 12 月の発生量（平年比） | 並 | | |
| 予報 | 12 月からの増減傾向 | → | | |
| | 1 月の発生量（平年比） | 並 | | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移（→） | | |

調査結果

発病葉率の推移




- ・ 葉の発病度0.2（平年0.2）
- ・ 発生ほ場率100%（平年：50.0%）

防除のポイント

- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

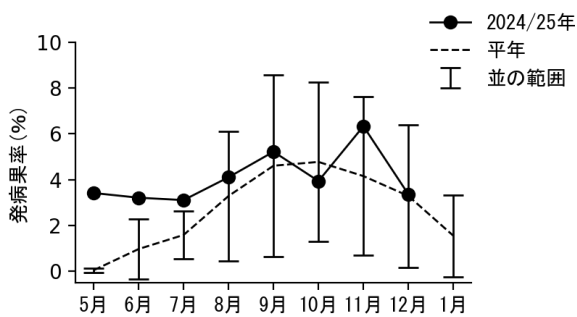
被害果→



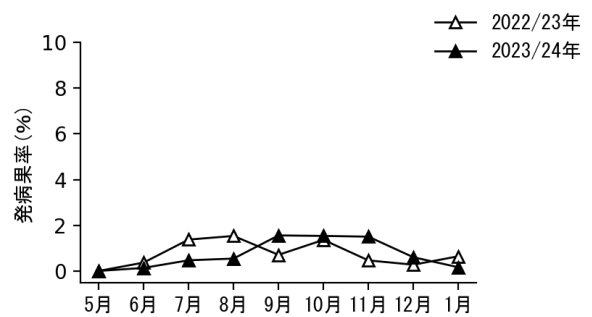
| | | | |
|-------|----------------|---------------|---|
| 作物 | かんきつ (タンカン) | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ① かいよう病 | |  |
| 調査結果 | 12 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報 | 12 月からの増減傾向 | ↘ | |
| | 1 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↘) | |

調査結果

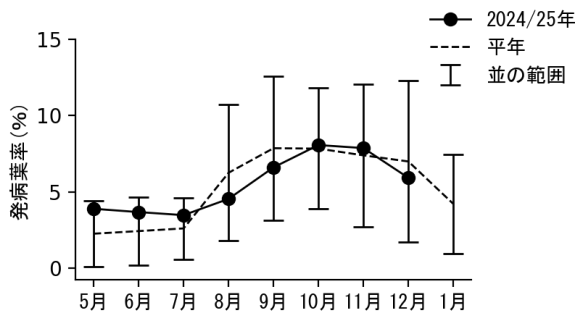
発病果率の推移 (今期と平年)



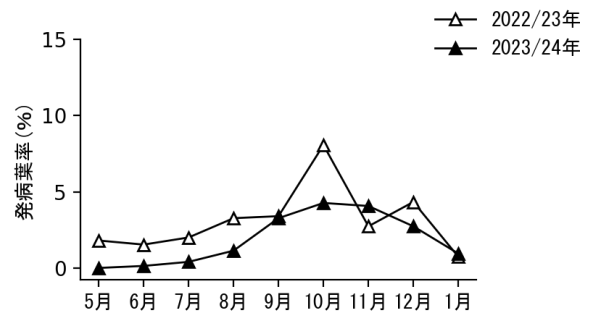
発病果率の推移 (過去 2 年)



発病葉率の推移 (今期と平年)



発病葉率の推移 (過去 2 年)




- ・ 果実の発病度0.7 (平年0.4)
- ・ 発生ほ場率75.0% (平年 : 76.1%)

防除のポイント

- ・ 本病はミカンハモグリガによる食害痕から侵入しやすい。
- ・ 罹病葉・枝は次期作の伝染源になるので除去する。

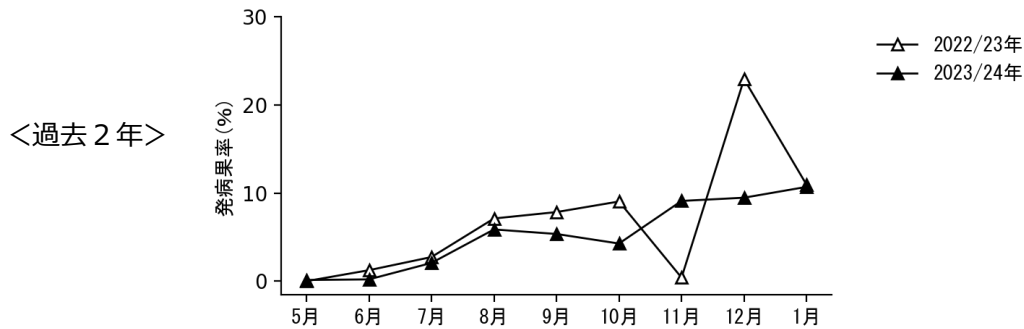
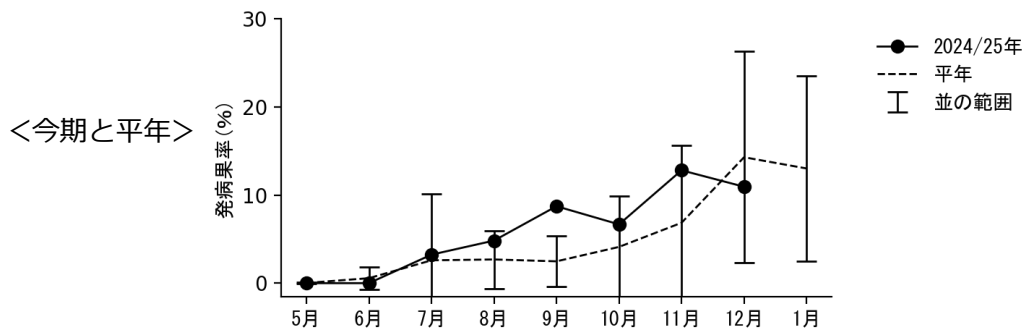
被害葉→



| | | | | |
|-------|---------------|--------------|---|------|
| 作物 | かんきつ（タンカン） | | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ② 黒点病 | |  | |
| 調査結果 | 12 月の発生量（平年比） | 並 | | |
| 予報 | 12 月からの増減傾向 | → | | |
| | 1 月の発生量（平年比） | 並 | | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移（→） | | |

調査結果


発病果率の推移



- ・ 果実の発病度2.2（平年3.5）
- ・ 発生ほ場率100%（平年：89.1%）

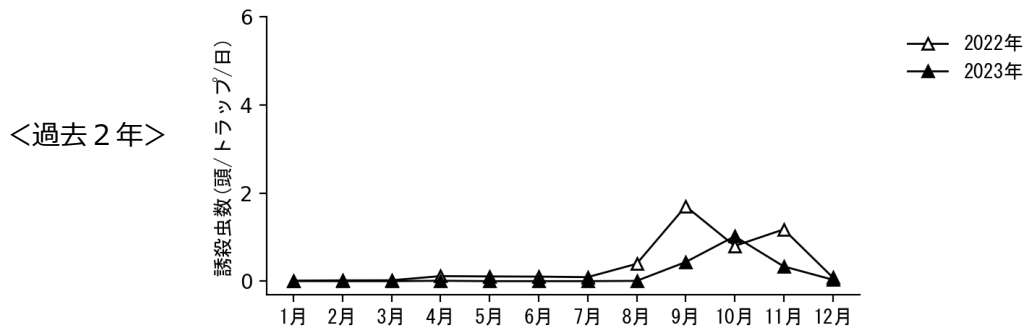
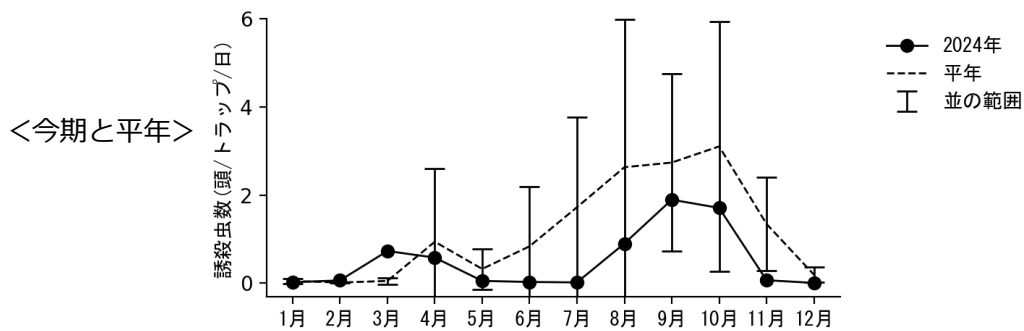
防除のポイント

- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

| | | | | |
|-------|----------------|---------------|----|---|
| 作物 | マンゴー | | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | チャノキイロアザミウマ | | |  |
| 調査結果 | 12 月の発生量 (平年比) | やや少 | | |
| 予 報 | 12 月からの増減傾向 | → | | |
| | 1 月の発生量 (平年比) | 並 | | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (→) | | |

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移




・発生施設率25.0% (平年 : 90.0%)

防除のポイント

- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・不要な新梢は、施設外に除去する。
- ・出蕾・開花期における本種の増加を抑制するため、ビニール被覆前後に予防散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

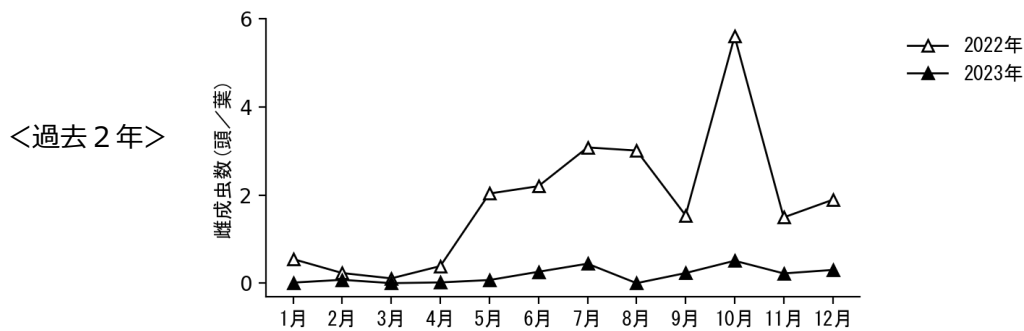
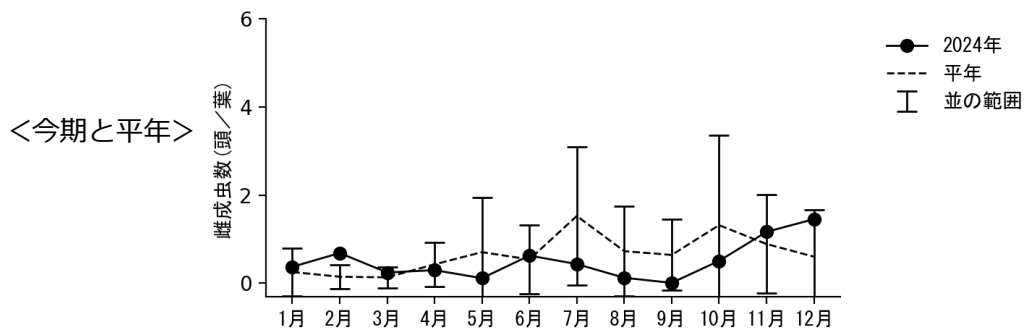


ナガエコミカンソウ

| | | | | |
|-------|----------------|---------------|----|--|
| 作物 | マンゴー | | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ① ハダニ類 | | |  <p>シュレイツメハダニ</p> |
| 調査結果 | 12 月の発生量 (平年比) | 並 | | |
| 予報 | 12 月からの増減傾向 | ↘ | | |
| | 1 月の発生量 (平年比) | 並 | | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↘) | | |

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率14.3% (平年：44.2%)

防除のポイント


- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・冬季はマシン油乳剤による防除が効果的である。本薬剤は天敵に影響が少なく、天敵を保護しながらの防除が期待できる。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

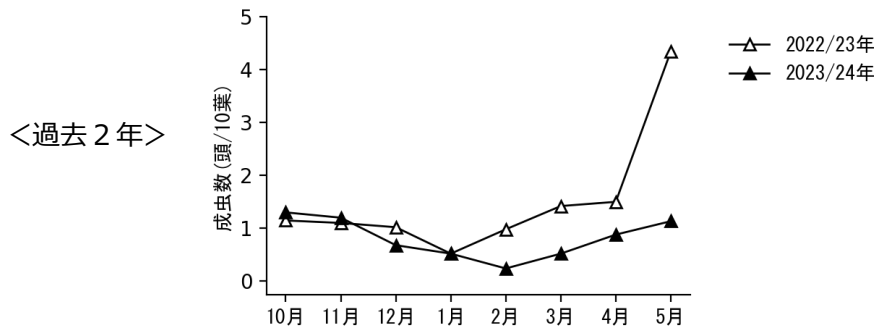
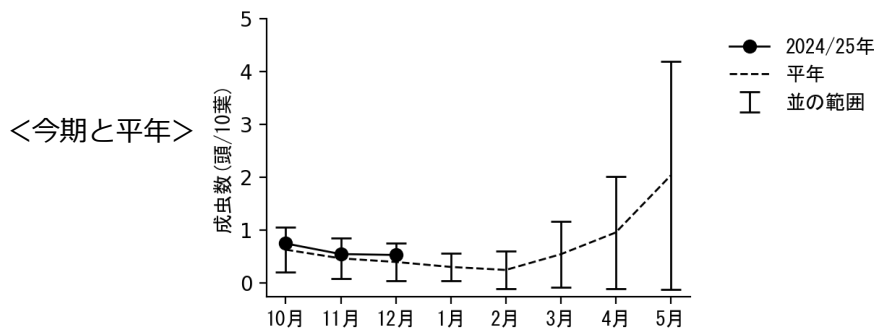


マンゴーツメハダニ

| | | | | |
|-------|----------------|---------------|----|---|
| 作物 | ピーマン(施設) | | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ① タバココナジラミ | | |  <p>成虫</p> |
| 調査結果 | 12 月の発生量 (平年比) | 並 | | |
| 予報 | 12 月からの増減傾向 | → | | |
| | 1 月の発生量 (平年比) | 並 | | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (→) | | |

調査結果

成虫数の推移




・発生施設率66.7% (平年 : 50.9%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・多発するとすす病を引き起こすため、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。

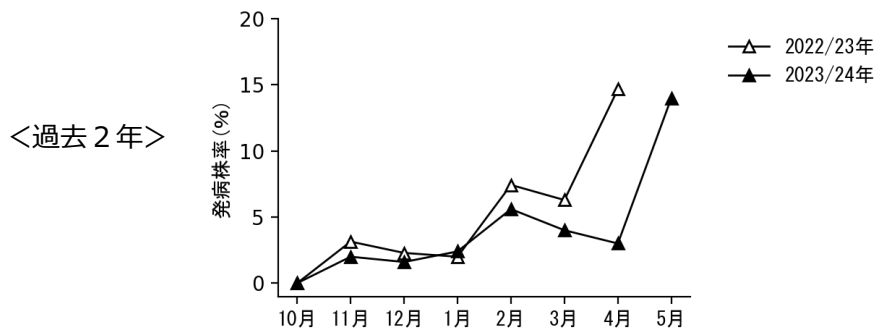
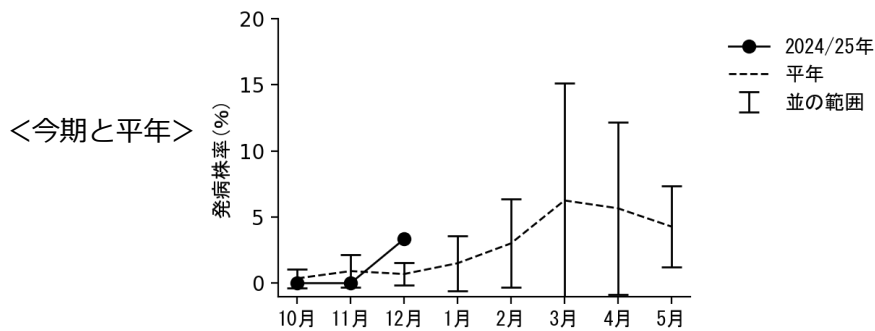


幼虫

| | | | | |
|-------|----------------|---------------|----|---|
| 作物 | トマト(施設) | | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ① 黄化葉巻病 | | |  |
| 調査結果 | 12 月の発生量 (平年比) | やや多 | | |
| 予 報 | 12 月からの増減傾向 | ↗ | | |
| | 1 月の発生量 (平年比) | やや多 | | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↗) | | |

調査結果


発病株率の推移



・発生施設率100% (平年：26.0%)

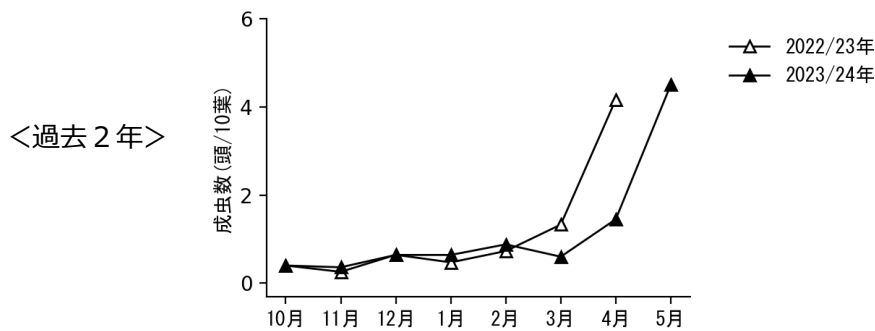
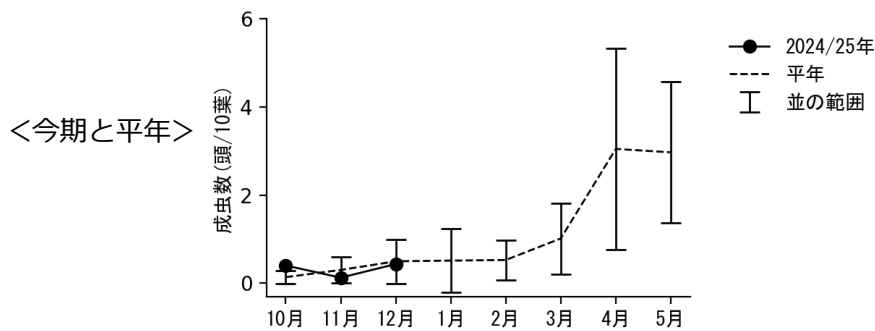
防除のポイント

- ・媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。
- ・伝染源となるムラサキカタバミやノゲシ等の雑草除去に努める。
- ・発病株や摘葉残さは伝染源となるため、施設外に持ち出しビニール袋に入れるなどして密閉処分する。

| | | | |
|-------|----------------|---------------|---|
| 作物 | トマト(施設) | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ② タバココナジラミ | |  <p>成虫</p> |
| 調査結果 | 12 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報 | 12 月からの増減傾向 | → | |
| | 1 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (→) | |

調査結果

成虫数の推移




・発生施設率100% (平年：64.4%)

防除のポイント

- ・本種はトマト黄化葉巻ウイルスを媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

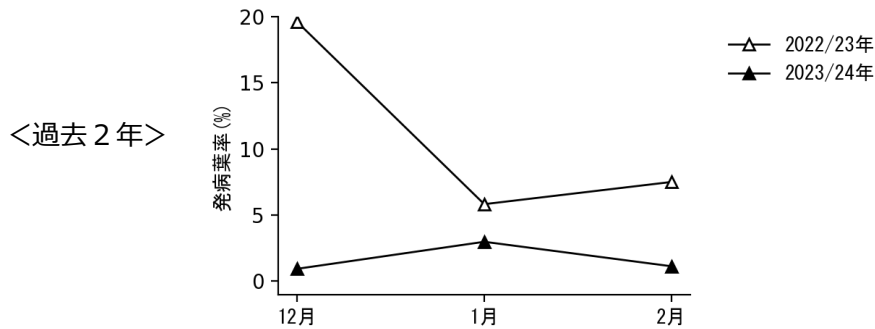
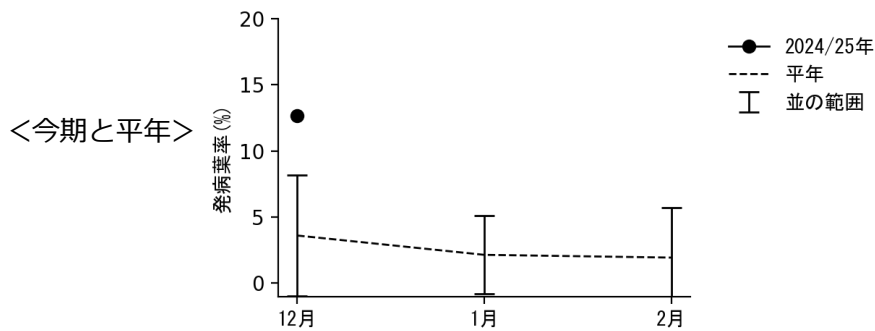


幼虫

| | | | | |
|-------|---------------|--------------|----|---|
| 作物 | 小ギク（彼岸出荷用） | | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ① 黒斑・褐斑病 | | |  |
| 調査結果 | 12 月の発生量（平年比） | やや多 | | |
| 予 報 | 12 月からの増減傾向 | ↓ | | |
| | 1 月の発生量（平年比） | やや多 | | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移（↓） | | |

調査結果


発病葉率の推移



・発生ほ場率100%（平年：31.4%）

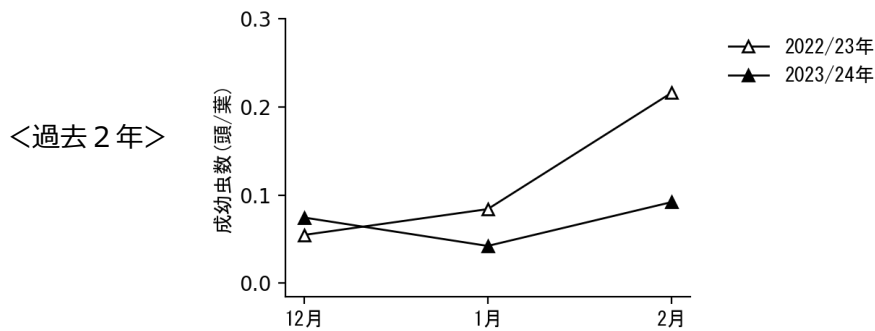
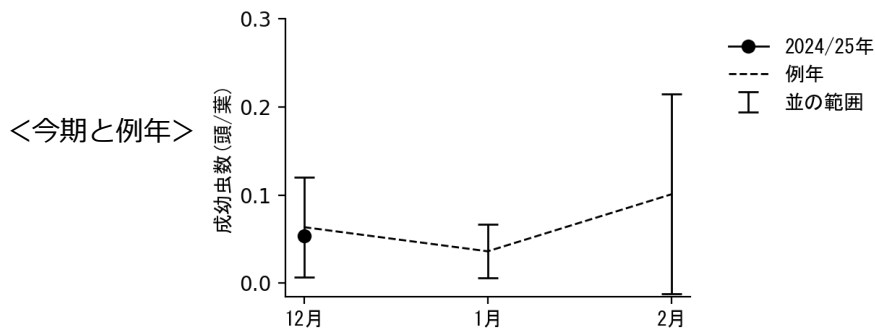
防除のポイント

- ・発病葉は速やかに除去する。
- ・ほ場の排水・通風を良くする。
- ・水滴の跳ね上がりを防止するため、敷草やマルチ等を行う。
- ・肥料切れや窒素質肥料の過用は発生を助長するため、施肥管理を適正に行う。
- ・発生が多い場合は薬剤防除を徹底する。

| | | | | |
|-------|---------------|--------------|----|---|
| 作物 | 小ギク（彼岸出荷用） | | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ② アザミウマ類 | | |  <p>クログハナアザミウマ</p> |
| 調査結果 | 12 月の発生量（例年比） | 並 | | |
| 予報 | 12 月からの増減傾向 | ↘ | | |
| | 1 月の発生量（例年比） | 並 | | |
| 予報の根拠 | | 例年の発生量の推移（↘） | | |

調査結果


成幼虫数の推移



- ・発生種：クログハナアザミウマ
- ・発生ほ場率66.7%（例年：82.2%）

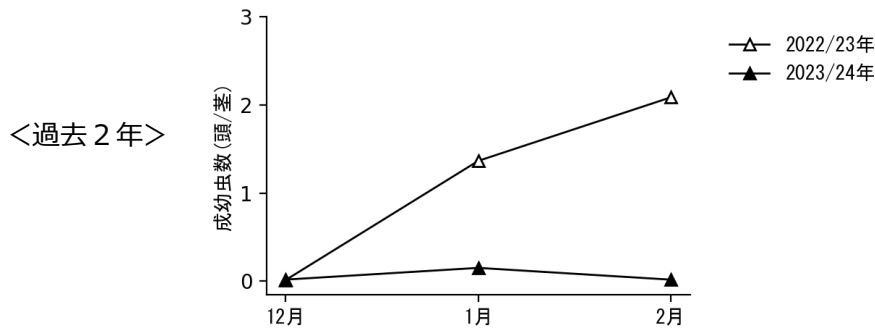
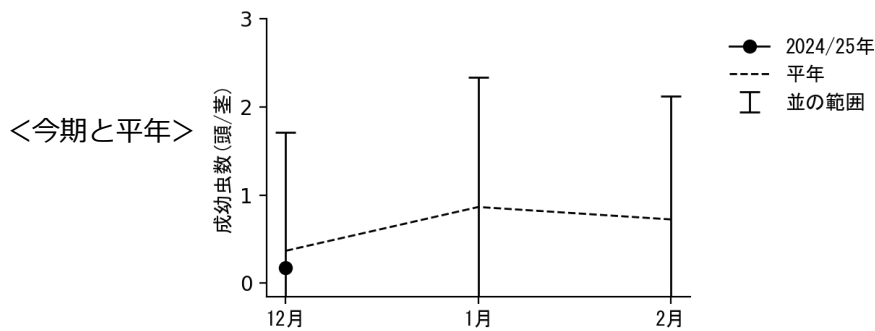
防除のポイント

- ・定植～生育期または本虫の発生初期に粒剤を施用する。
- ・成虫は新葉や上位葉に、幼虫は上～中位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・同一ほ場内にあるキクは、生長段階等の違いがあっても、同時に防除を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいため、同一薬剤の連用を避ける。

| | | | |
|-------|---------------|--------------|--|
| 作物 | 小ギク（彼岸出荷用） | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ③ アブラムシ類 | | |
| 調査結果 | 12 月の発生量（平年比） | 並 |  <p>有翅虫</p> |
| 予報 | 12 月からの増減傾向 | ↗ | |
| | 1 月の発生量（平年比） | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移（↗） | |

調査結果

成幼虫数の推移




・発生ほ場率83.3%（平年：41.5%）

防除のポイント

- ・発生源となりうるほ場内外の雑草を除去する。
- ・定植～生育期または本虫の発生初期に粒剤を施用する。
- ・発生が認められたら新葉部を中心に発生部位に薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいため、同一薬剤の連用を避ける。

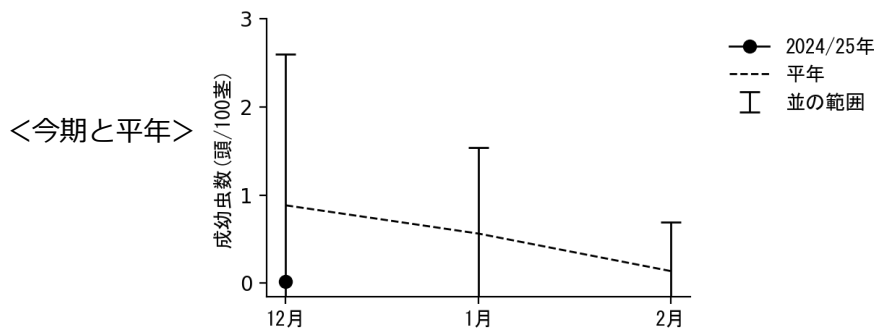


被害の様子

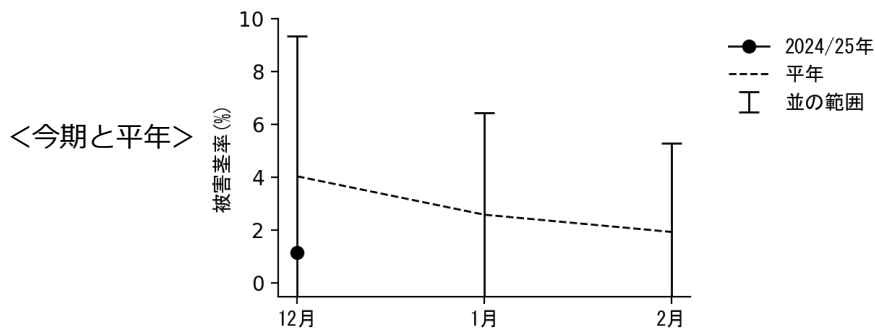
| | | | |
|-------|---------------|--------------|---|
| 作物 | 小ギク（彼岸出荷用） | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ④ カスミカメ類 | | |
| 調査結果 | 12 月の発生量（平年比） | 並 |  |
| 予報 | 12 月からの増減傾向 | ↘ | |
| | 1 月の発生量（平年比） | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移（↘） | |

調査結果

成幼虫数の推移




被害茎率の推移



- ・発生種：ウスモンミドリカスミカメ
- ・発生ほ場率50.0%（平年：16.7%）

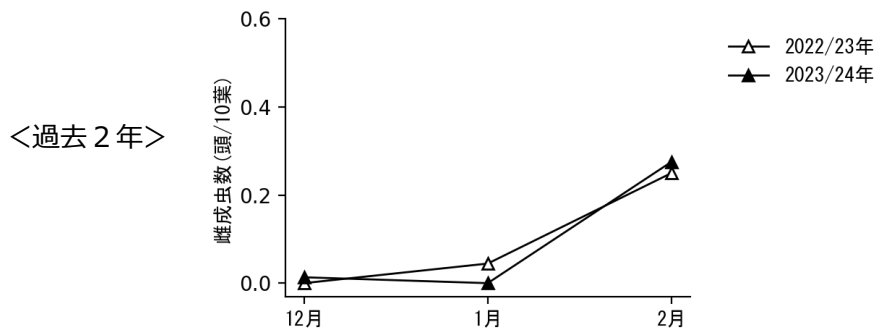
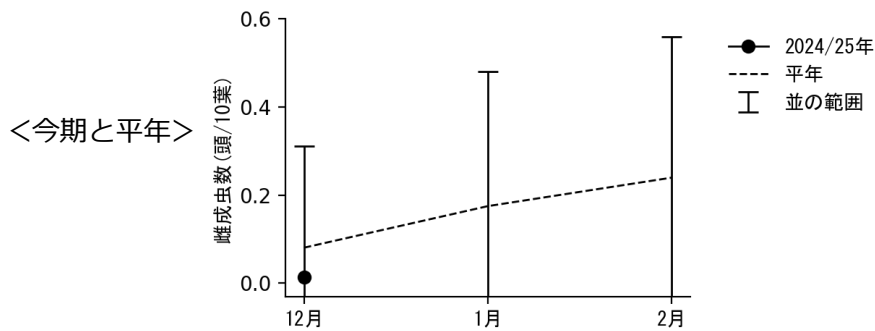
防除のポイント

- ・ほ場周辺のキク科雑草の花等は発生源となりうるので除去する。
- ・被害株は異常分枝するため、被害が確認された場合は速やかに再整枝を行う。
- ・防除は成虫の出現初期から 5～7 日おきに実施する。

| | | | | |
|-------|---------------|--------------|----|--|
| 作物 | 小ギク（彼岸出荷用） | | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ⑤ ハダニ類 | | |  <p>ナミハダニ</p> |
| 調査結果 | 12 月の発生量（平年比） | 並 | | |
| 予報 | 12 月からの増減傾向 | ↗ | | |
| | 1 月の発生量（平年比） | 並 | | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移（↗） | | |

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：ナミハダニ（黄緑型）
- ・発生ほ場率16.7%（平年：5.9%）

防除のポイント

- ・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。